

大津 歴博 だより

2000
No.41

開館10周年記念事業のお知らせ

開館10周年記念・文化財保護法50周年記念企画展

古絵図が語る大津の歴史 10月21日(土)～12月3日(日)



重要文化財 葛川と伊香立庄相論絵図（彩色絵図・部分）明王院蔵

明王院領の葛川と無動寺領伊香立庄との境相論の過程で、文保二年（1318）に描かれた有名な相論絵図。全体は料紙十紙を長方形と台形部分に貼りあわせ、地主神社境内から伊香立庄境の途中までを描く。朱筆による注記と、地主神社・明王院を大きく描くことで、霊地としての葛川の領域内であることを主張する。写真は左端の地主神社と明王院の境内部分で、顔料を使用して丁寧に描いている。明王院の境内では林立する参籠札が目をはき、地主神社は明王院背後の故地に描かれている。



大津市歴史博物館

開館10周年を迎えて

館長 岩佐 佳 宜

大津市歴史博物館は、平成二年十月に開館し本年10周年を迎えました。爾来、博物館の中心的な機能ともいべき展示をはじめ、様々な事業を展開し、多くの市民の来館を得て、大津・近江の歴史はもとより、内外の優れた文化に触れて頂き、市民に親しまれる博物館として歩むことができましたことは、皆様方のご支援とご協力のお陰であり、厚く御礼申し上げます。

「十年一昔」といいますが、IT革命という言葉に表される情報通信技術の高度化をはじめ、今日の社会情勢は、あらゆる分野にわたり猛烈なスピードで変化、進展する一方、「もの」から「こころ」の充実に求める時代へと、博物館を取りまく環境も一昔前とは格段の差があります。

眼前に迫った二十一世紀という新しい時代の幕開けを迎え、博物館も時代の趨勢に的確に適応していかなければなりません。

このような中、これからの博物館は、資料の収集、保存、展示、調査研究、情報提供などといった、従来の機能の一層の充実はもとより、学校や他の機関との連携、マルチメディアを活用した資料や展示の充実、そして「観る」博物館から、直接触れたり、楽しく遊びながら学習したり体験したりする「参加体験型」の施設として、その機能を充実させるとともに、市民の生涯学習の場として明確に位置づけることが求められています。

今後もこのような、市民に身近な博物館をめざして一層努力したいと考えておりますので、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



開館10周年記念特別公開
れきはく10年の歩み

秘蔵の「名品」一挙公開

10月21日(土)～28日(土)

企画展示室B

観覧料無料

今回博物館では、開館以来の10年間で収集してまいりました資料のなかから、未公開の貴重な資料を始め、庶民生活に密着した興味深い資料まで、絵画・工芸・彫刻・考古・歴史・民俗の各分野から厳選して公開します。

17世紀前期の近江の名所や風俗を描いた名所図屏風、近江八景の蒔絵の逸品、南湖の風景を大画面に描いた大絵図、江戸時代中期の著名な学者・頼山陽が、琵琶湖周辺の名勝への憧れを綴った手紙など約20件を特別公開。また開館以来の展覧会ポスターなど、10年間の歩みを振り返る資料などもあわせて展示します。



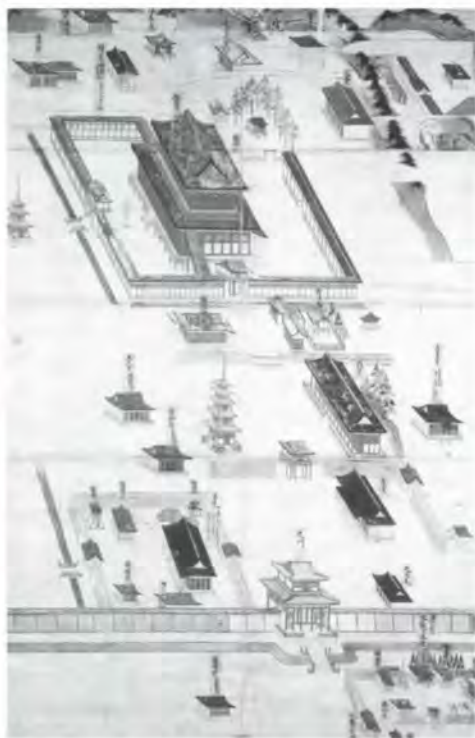
新羅明神像 南北朝時代

開館10周年記念・文化財保護法50周年記念

『古絵図が語る大津の歴史』

かつて、歴史を語る上で第一の資料とされたのは、古文書でした。しかし、最近新たに注目を集めるようになったのが、絵図です。絵図には古文書では表現できないさまざまな情報が取り込まれており、絵図を読み解くことによって新たな歴史像が見えてきます。

大津市内には、鎌倉時代の有名な「葛川与伊香立庄相論絵図」（明王院蔵、重要文化財）や「園城寺境内古図」（園城寺蔵、重要文化財）を始めとして、「日吉山王社古図」（延暦寺蔵）や「法光寺境内



重要文化財 園城寺境内古図 中院 園城寺蔵

内絵図」（法光寺蔵、大津市指定文化財）などの社寺境内図、江戸時代の大津百町全体を描いた「大津町古絵図」（山田豊三郎家蔵、大津市指定文化財）や大津町の個別町を描いた各町絵図、寛文の大地震で破損した膳所城とその修復計画を記入した絵図（滋賀県立図書館蔵、滋賀県指定文化財）、江戸時代の葛川・堅田・坂本など地域の特色を巧みに描いた絵図、琵琶湖の船運や瀬田川凌えの図など、色彩豊かで興味深い内容の絵図が、数多く残されています。

本展覧会では、それらの古絵図や関連する絵画・古文書を一堂に展示することによって、そこに盛り込まれた数多くの情報を引き出し、「絵画の見かた」を紹介するとともに、さまざまな時代の絵図や江戸時代の名所図会、さらには現在の航空写真と比較することによって、大津のうつりかわりを追っていきます。



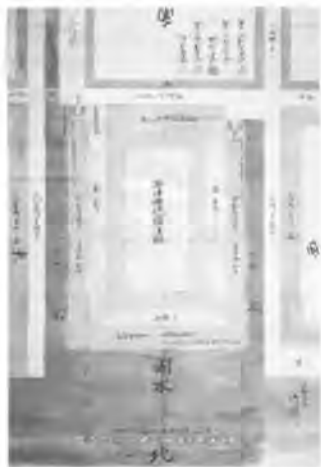
大津市指定文化財 大津町古絵図 山田豊三郎家蔵

◎主な展示作品
重要文化財
・葛川与伊香立庄相論絵図（明王院蔵）

企画展示室A

10月21日(土)～12月3日(日)

休館日 10/23、30、11/13、20、24、27



彦根藩の天津蔵屋敷絵図
重要文化財 彦根城博物館蔵

- ・葛川明王院文書(明王院蔵)
- ・園城寺境内古図(園城寺蔵)
- ・園城寺境内古図(京都国立博物館蔵)
- ・彦根藩井伊家文書(彦根城博物館蔵)
- ・滋賀県指定文化財
- ・比良庄絵図(北比良区蔵)
- ・膳所城寛文地震修復願ヶ所絵図(滋賀県立図書館蔵)
- ・田上不動奥山論所立会改絵図(滋賀県立図書館蔵)
- ・大津市指定文化財
- ・法光寺境内絵図(法光寺蔵)
- ・大津町古絵図(山田豊三郎家蔵)
- ・八所神社文書(八所神社蔵)
- ・比叡山三塔図(延暦寺蔵)
- ・日吉山王社古図(延暦寺蔵)
- ・石山寺境内領内絵図(石山寺蔵)
- ・本堅田村絵図(伊豆神社蔵)
- ・瀬田川渡え絵図(館蔵)

※会期中一部展示替えを行います。
※11月6日(月)は臨時開館

など

歴史博物館講座ご案内

平成12年10月から12月まで

10月7日(日) 10:00~11:30	親子歴史講座	博物館を探検しよう
○歴史博物館で日頃見られない場所を見学するとともに、昔の生活用具に触れてみます。 講師：樋爪 修(本館学芸員)		
10月14日(日) 13:30~15:00	古文書に親しむ 4	古文書にみる村のくらし
○江戸時代の上田上の古文書を読み、当時の農村生活のようすをさぐります。 講師：中森 洋(本館学芸員)		
10月21日(日) 13:30~15:00	企画展関連講座	大津に伝わる古絵図の数々
○大津には豊かな歴史を物語る数多くの絵図が残されています。展示品を紹介しながら、「絵図の見かた」についても紹介します。 講師：杉江 進(本館学芸員)		
10月28日(日) 13:30~15:00	開館10周年記念講演会	地図を楽しむ
○「滋賀県地図」をみながら、地形・交通・河川など、近江の特性をさぐります。 講師：木村 至宏(成安造形大学学長・本館顧問)		
11月4日(日) 13:30~15:00	企画展関連講座	葛川絵図について
○葛川明王院に伝わった中世を代表する相論絵図「葛川与伊香立庄相論絵図」を読み解きます。 講師：下坂 守(京都国立博物館普及室長)		
11月11日(日) 10:00~11:30	親子歴史講座	坂本をあるこうー江戸時代の絵図をみながらー
○江戸時代の絵図に描かれた町は、今どうなっているのでしょうか、延暦寺・日吉大社の門前町として栄え、昔からの町並みが残る坂本を、絵図を片手にあるきます。 講師：杉江進(本館学芸員)		
11月18日(日) バスツアー	ふるさと大津歴史教室	葛川と鯖街道
○JR堅田駅(集合)ー葛川明王院・地主神社・かや葺民家ー木地師沢井家ー朽木村市場ー熊川宿の街並みーJR今津駅(解散) 講師：和田 光生(本館学芸員)		
11月25日(日) バスツアー	ふるさと大津歴史教室	大石の里を訪ねて
○京阪石山寺駅(集合)ー正法寺ーアケア琵琶ー大石義民碑ー浄土寺ー佐久奈度神社ー富川窟崖仏ー常信寺ー春日神社ー京阪石山寺駅(解散) 講師：寺島 典人(本館学芸員)		
12月2日(日) 13:30~15:00	古文書に親しむ 5	漢詩文の読解
○古文書解読のなかでも難解といわれる漢詩文を大津関係の資料も盛り込み分かりやすく解説します。 講師：伊東 宗裕(京都市歴史資料館員)		
12月9日(日) 10:00~11:30	親子歴史講座	わらを使ってあそぼう
○わら馬やしめ縄など、わらを使っているいろいろなものを作ってみよう。 講師：木津 勝(本館学芸員)		

※諸般の事情により、内容が変更される場合があります。
※いずれの講座もハガキでお申込みください。
※参加証の発送は、講座申込み締切り(10日前)以降となります。
通知がない場合は、恐れ入りますが、博物館までお問い合わせください。

上田上の古文書

10月3日(火)～11月19日(日)

大津市東南部にあたる上田上地域は、江戸時代には、膳所藩領の農村地帯でした。本展は、上田上の諸村のなから、田上郷土史料館保管の牧村の古文書を中心にして、上田上で営まれていた江戸時代の農民生活の一端を紹介しようとするものです。

展示品は、貞享元年(一六八四)に、膳所藩が領内村々の火事の際の村人の消火活動の方法について定めた「在々火事之節駈合之定」や、享保二十年(一七三五)に幕府の命により、上田上の村々が当時の産物について調査して報告した「田上八ヶ村御尋草木生類改帳」、江戸時代末期の「太鼓おどり」の中で、有名な忠臣蔵の芝居を真似て演じていたことが知られる、興味深い古文書などをはじめ、十数点を展示予定です。

古文書は、一見むずかしく、とっつきにくいものですが、そこには、多彩な歴史情報が盛り込まれています。本展では、それを読み解くことで、昔の庶民生活の実態を明らかにしていきたいと考えています。

牡丹江市寄贈コレクション 現代中国の水墨画と書

11月21日(火)～12月17日(日)

平成六年に大津市と牡丹江市(中国黒龍江省)は友好都市一〇周年を迎えました。その記念事業として開催された「牡丹江書画展」では、五〇点の出品作が大津市に寄贈されました。

中国絵画は、一貫して水墨画を主流として、近代以降の方向性を決定づけた清朝末期の海上派以降もその歴史をあゆんできました。かつて多くの

日本の画家に影響を与え、近い関係にあった両国の絵画は、現代では、さまざまな点で違ったものになっていきます。

筆や顔料によって描かれているものの、扱う主題の傾向をはじめ、技巧や表現は、現代日本画とは、ひと味もふた味もちがいます。それらの作品は、単なる絵画にとどまらず、現代中国人の感性や文化・風俗をうかがわせてくれるヴィジュアル資料ともいえるでしょう。

本展は寄贈コレクションから、水墨画を中心に書もおりませて興味深い作品の数々を紹介いたします。



山村幽声図 邵子振筆

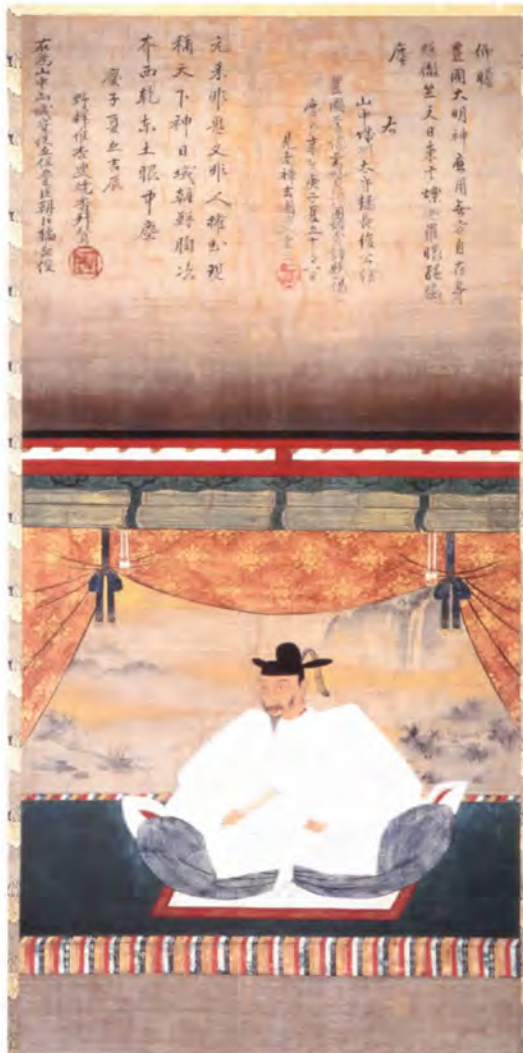
開館10周年記念・不断念佛十八萬日大法会記念 企画展

『西教寺名宝展』

大津市坂本の西教寺は、室町時代に真盛上人によつて中興された、京都の法勝寺伝来の戒律と、比叡山黒谷の流れをくむ念仏の名刹です。本年はその真盛が始めた不断念佛の、十八萬日大法会の年に当たります。これを記念して、このたび西教寺伝来の寺宝のなから、よりすぐった名品を、特別公開していただくことになりました。

展示総数は、重要文化財三点を含む、室町時代

から江戸初期の文化財を中心とした三〇点。法勝寺伝来の平安時代の法華経（重文）や山越阿弥陀図などの仏教美術の名品をはじめ、豊臣秀吉の追善のために寄進された秀吉像（重文）などの西教寺を信仰した人々の遺品も集め、西教寺の歴史と興隆を物語ると共に、大津に開花した仏教文化とそれを支えた人々を知ろうえでも興味深い展示としました。



重要文化財 豊臣秀吉像

11月1日(水)～11月12日(日)

企画展示室B

会期中無休

◆主な展示作品◆

- 重要文化財
- ・後土御門天皇宸翰真盛上人号（室町）
 - ・法華経（色紙金銀箔散、平安）
 - ・豊臣秀吉像（桃山）

重要美術品

- ・慈威和尚像（南北朝）
- ・前田菊姫像（桃山）

県指定文化財

- ・真盛上人像（室町）

市指定文化財

- ・阿弥陀如来立像（鎌倉）
（付：像内納入木造五輪塔柱）
- ・袖子・柿二猿図屏風（桃山）
- ・花鳥獸文様刺繍打敷（中国・明代）
- ・山越阿弥陀図（室町）
- ・真盛上人絵伝記（江戸）

大津歴博だより No.41

平成12年9月21日

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎ (077) 521-2100